



## 国際シンポジウム「新渡戸稲造とこれからのグローバル化」 の開催について（お知らせ）

**開催概要：**大学院文学研究科・文学部が東京で一般向けのシンポジウムを開催します。札幌農学校第二期生で国際的に活躍した「新渡戸稲造」とその思想内容を踏まえた上で、今後、「人文学研究のグローバル化」を推進するには、何が求められ、何をなすべきかについて、学内外の多彩なメンバーが自由に講演・討論します。シンポジウムの様子は北大構内でも同時中継を行い、一般に公開します。

**開催趣旨：**このシンポジウムでは、国内外から「新渡戸研究者」が集い、新渡戸稲造とその思想に関する報告を行うとともに、各分野から「国際的に活躍中の本学卒業生」を加えて、これからの国際化社会において、我々は何に取組み、何を果たすべきかについて討論します。

**日程：**2014年3月21日（金・祝）13：00～18：00（開場 12：30）

**場所：**ステーションコンファレンス東京 605室

（東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー6階）JR 東京駅日本橋口直結

※同時中継については別紙参照。

**主催：**北海道大学大学院文学研究科・文学部

**参加対象・募集人数：**一般向け 定員：約 200 名

**参加費：**無料

**言語：**日本語（外国人講演者の使用言語も日本語です）

**プログラム：**

第1部：講演「国際人 新渡戸稲造」

講演者：ミシェル・ラフェイ（北海道教育大学） トレント・マクシ（米国アマーフト大学）

権 錫永（北海道大学大学院文学研究科）

第2部：パネルディスカッション「人文学研究のグローバル化とその可能性」

パネリスト：上記の講演者及び、本学の卒業生である 日野峰子（会議通訳者）、

曾根 優（NHK アナウンサー）、白木沢旭児（北海道大学大学院文学研究科）の3名

**申し込み期間・方法：**事前予約不要

詳細情報 URL：<http://www.let.hokudai.ac.jp/info/2014/02/post-527.php>

**お問い合わせ先**

所属・職・氏名：北海道大学大学院文学研究科 研究推進室 森岡和子（もりおか かずこ）

TEL：011-706-4083 FAX：011-706-4083 E-mail：[office@let.hokudai.ac.jp](mailto:office@let.hokudai.ac.jp)

# 北大でも同時中継

新渡戸稲造とこれからのグローバル化

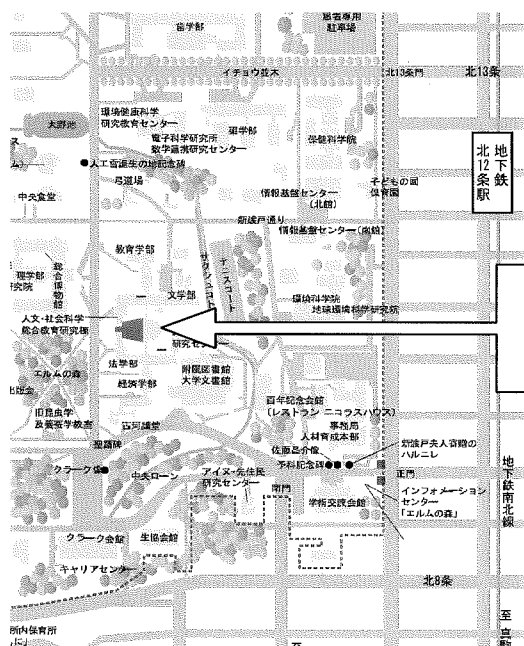
—『武士道』と国際人—

Nitobe Inazo and Future Globalization : *Bushido* and World Citizens

2014年3月21日(金) 春分の日

13:00~18:00

## ◆ 会場アクセス



文系共同講義棟・6番教室

※ どなたでも自由に参加できます。  
事前申込は不要です。  
当日会場へ直接お越しください。

## ◆ シンポジウムの詳細はウェブサイトでもご覧いただけます

新渡戸シンポジウム

検索

<http://www.let.hokudai.ac.jp/info/2014/02/post-526.php>



# 新渡戸稲造と

Nitobe Inazo and Future Globalization: *Bushido* and World Citizens

## これからのグローバル化



『武士道』と国際人。



challenges to give satisfactory replies to M. Aveleje and to my wife. I found that without returning *Bushido* and *Kokushu*, the social of the present Japan are a sealed volume. Making advantage of unforced influences on account of illness, I put down in the order now presented to the public some of the answers given in household conversation. They consist mainly of what I was taught and told in my youthful days. *Bushido* was still in force.

between Lafcadio Hearn and Mrs. Hugh Emma and Sir Ernest Satow and Prof. Christian on the other, it is indeed discouraging to see anything Japanese in English. The only advice I have ever given is that I can ensure the side of a personal defendant, while those financial writers are at best solicitors and attorneys. We often thought:—Had I their gift of language, I would present the cases of Japan in more convincing manner than those who speak in a foreign tongue. I have tried to do so, but I can not be myself intelligible.

▷開会挨拶 (13:00～13:10)  
神 和順 (北海道大学大学院文学研究科長)

□第1部 講演 (13:10～16:00)  
「国際人 新渡戸稲造」  
▷「新渡戸稲造と札幌農学校の国際人」 (13:10～14:00)  
ミシェル・ラフェイ (北海道教育大学准教授)  
▷「二十一世紀に読む『武士道』」 (14:10～15:00)  
トレント・マクシ (米国アマースト大学准教授)  
▷「新渡戸稲造の光と影」 (15:10～16:00)  
権 錫永 (北海道大学大学院文学研究科教授)

□第2部 パネルディスカッション (16:20～17:50)  
「人文学研究のグローバル化とその可能性」  
▷コーディネーター  
曾根 優 (NHKアナウンサー/北海道大学文学部出身)  
▷パネリスト  
トレント・マクシ (米国アマースト大学准教授)  
ミシェル・ラフェイ (北海道教育大学准教授)  
権 錫永 (北海道大学大学院文学研究科教授)  
日野 峰子 (会議通訳者/北海道大学文学部出身)  
白木沢 旭児 (北海道大学大学院文学研究科教授)

▷開会挨拶 (17:50～18:00)  
新田 孝彦 (北海道大学理事・副学長)

◆その他  
・講演およびパネルディスカッションは日本語で行います。  
・北海道大学文学研究科における国際的研究活動のパネル展示をあわせて行います。  
・シンポジウムの様子は、北海道大学・文系共同講義棟6番教室にて、同時中継します。

2014.  
**3月21日 [金・祝]**  
13:00～18:00 (開場 12:30)

会場：ステーションコンファレンス東京 605室  
東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー6階  
定員：約200名 (参加費無料、事前予約不要 途中入退室可)

●使用言語：日本語

主催：北海道大学大学院文学研究科・文学部  
お問い合わせ：北海道大学大学院文学研究科  
TEL: 011-706-4083 E-mail: office@let.hokudai.ac.jp  
www.let.hokudai.ac.jp

どなたでも参加いただけます。  
国際交流に関心がある  
企業・大学の関係者、  
大学生・高校生の参加も  
歓迎いたします。



講演者とパネリスト



「新渡戸稲造と  
札幌農学校の国際人」

ミシェル・ラフェイ Dr. Michelle La Fay  
(北海道教育大学准教授)

○略歴  
マクファーソン大学卒業  
北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)  
著書『なまら内村鑑三なわたし』柏輪社、2011年。



「二十一世紀に読む『武士道』」

トレント・マクシ Dr. Trent Maxey  
(アマースト大学准教授)

○略歴  
ノースウェスタン大学卒業  
コーネル大学博士課程修了、Ph.D.  
ハーバード大学 ライシャワー日本研究所博士研究員を経て現職。  
著書 *The 'Greatest Problem': Religion and State Formation in Meiji Japan*,  
Forthcoming Spring 2014 from Harvard University Asia Center  
(East Asia Monograph Series).



「新渡戸稲造の光と影」

権 錫永 Dr. Seok-Yeong Kweon  
(北海道大学大学院文学研究科教授)

○略歴  
清州大学卒業  
北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)  
著書『オンドルの近代史』—潮閣、2010年(ソウル)。



白木沢 旭兎 Dr. Asahiko Shirakizawa  
(北海道大学大学院文学研究科教授)

○略歴  
京都大学大学院農学研究科博士課程単位修得退学、博士(経済学)  
著書『大恐慌期日本の通商問題』御茶の水書房、1999年。



日野 峰子 Mineko Hino  
(会議通訳者・ISSインスティテュート講師)

○略歴  
北海道大学文学部卒業後フリーの通訳・翻訳者に。  
1987年より東京在住。2年間通訳者養成スクール  
(現・アイ・エス・エス・インスティテュート東京校)に特待生・奨学生として在籍、  
同時通訳訓練を経て、現在、会議通訳者として活躍。



コーディネーター  
曾根 優 Masaru Sone  
(NHKアナウンサー)

○略歴  
北海道大学文学部卒業後NHK入局。主な仕事として、  
2010年サッカーW杯南アフリカ大会や  
夏冬合わせて3回のオリンピックを現地から実況。

わが国の大学は、かねてより研究・教育上のグローバル化が求められています。なるほど研究成果の世界への発信、海外の大学との学術交流、外国人留学生の受入れ、英語による授業数の増加など、さまざまな取り組みが行われています。しかし、こうした形式的なグローバル化を通して、果たして世界レベルの研究成果が得られるでしょうか。また、真の国際人を育成することができるでしょうか。

いま一度、大学のグローバル化とは何かについて、人文学の視点から、精神的な面をも含めて考える必要があるように思われます。その際、手がかりとなるのが、北海道大学の前身である札幌農学校の二期生で、卒業後、国際的に活躍した新渡戸稲造です。

このシンポジウムでは、国内外から新渡戸研究者が集い、新渡戸稲造とその思想に関する報告を行うとともに、それを踏まえて、各分野で国際的に活躍中の本学卒業生を加えて、これからの国際化社会において、われわれは何に取組み、何を果たすべきかについて議論したいと思います。



# 新渡戸稲造と

Nitobe Inazo and Future Globalization: *Bushido* and World Citizens

## これからのグローバル化

### 『武士道』と国際人。



会場：ステーションコンファレンス東京 605室  
東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー6階  
[アクセス]  
○JR東京駅日本橋口直結  
新幹線日本橋口改札徒歩1分、八重洲北口改札徒歩2分  
○東京メトロ東西線大手町駅B7出口直結